

市立酒田病院と県立日本海病院の 統合再編についてお知らせします

●お問い合わせ／市企画調整課企画調整係
☎26-5704

市立酒田病院は昭和44年の建設であり、老朽化による医療環境の低下のため、建て替えの検討を進めてきました。その一方で、外部の有識者による市立酒田病院改築外部委員会から、重複する診療科を持つ県立日本海病院との競合や将来の北庄内の医療体制などにより、市立、県立2つの病院の統合再編が望ましいとの方向性が示されました。そのため、単独改築も視野に置きながら、統合再編について

県に提案、協議を行ってきました。このたび、市長と県知事が、統合再編することで合意し、今後、具体的な内容について協議することになりました。合意の内容は次のとおりです

県立日本海病院と市立酒田病院は、統合再編する

統合再編に向けて、県、市による協議会を速やかに設置する

統合再編の具体的なあり方（病床数、施設整備、経営形態等）は、

協議会等で検討する

統合再編へのQ&A

Q なぜ今、統合が必要なのでしょう。

A 医師確保が困難な中、県立日本海病院と市立酒田病院は多くの診療科が重複し競合関係にあり、医師が常駐しない診療科がでるなど、安定した医療提供ができなくなっています。併せて、診療報酬の改定や病床数の過剰など、病院経営の厳しさが増すことが想定されます。そのため、安定した医療提供を行うには、病院の再編が必要であると判断しました。

Q 経営統合により、急性期・慢性期医療を安定して提供できます。例えば、救命救急センターの設置による重症患者の24時間体制での受け入れ、がん、心臓病など難病患者への対応、リハビリテーションや慢性期病院への転院体制の充実、さらに、開業医や介護保険施設との連携など、北庄内地域で一定の医療提供が完結できる体制が可能になります。

Q 統合により医師の数が少なくなりませんか。

A 現在、医師が常駐していない、または、1人の診療科でも、複数の医師が配置でき、安定した医療提供が可能になります。また、医師の労働環境が改善されます。

Q いつ統合再編になるのですか

A 現時点では決まっていませんが、市立酒田病院の老朽化が進んでいるため、できるだけ早い時期が望ましいと考えます。

Q 運営形態はどうなるのですか。

A 具体的な経営形態、医療機能の分担、施設整備等は、速やかに協議会で検討していきます。

Q 市立病院が無くなるのですか。

A 2つの病院を経営統合し、新たな病院として運営します。東棟など既存の建物で活用できるところは活用し、市民の皆さんが安心して受診できる体制を目指します。

今後協議内容について、随時お知らせするとともに、市民の皆さんのご意見を、協議会へ反映させていきたいと考えています。

これまでの主な経過

年月	内容
H12. 5	庁内に市立酒田病院改築検討委員会を設立
H13. 6	市議会に市立酒田病院建設等対策特別委員会を設置
H16. 5 8	北庄内医療提供体制の将来を語るフォーラム開催。医師会は統合再編を提案
H16.10	総務省「地域医療の確保と自治体病院のあり方等に関する検討会報告書」で病病連携、役割分担の必要性が報告される
H17. 3	市立酒田病院施設整備マスタープラン策定報告書を作成
H17. 6	国の指導により、専門家による調査・検討機関として、市立酒田病院改築外部委員会を設置
H17.10	市立酒田病院改築外部委員会より県立日本海病院との統合再編が望ましいという報告がある
H17.12	県に対し、県立日本海病院の統合再編について、検討を提案、事務的協議に入る
H18. 8	県において、外部監査法人より山形県立病院事業分析評価調査業務報告書の報告および提言があり、統合再編により医療機能の充実化を図ることが地域住民にとって有効であると示される
H18. 9	県知事と市長が県立日本海病院と市立酒田病院の統合再編について合意

急性期医療：主として、急性増悪を含む発症して間の無い患者、または症状が不安定で回復期にある患者に対する一定期間の集中的な医療
慢性期医療：主として、症状が安定し、疾病と障害を抱えている患者に対して長期間にわたって提供する医療